

# 令和5年度中学校武道授業(弓道)指導法研究事業



射法八節の確認

令和5年度中学校武道授業(弓道)指導法研究事業(主催=日本武道館・全日本弓道連盟・日本武道協議会、後援=スポーツ庁)を10月12・13日の2日間、静岡県立静岡聴覚特別支援学校において実施し、研究者3名、連盟事務局2名が出席した。

同事業は中学校保健体育科における武道授業の充実に向け、教育効果の上がる指導計画等について研究討議するもので、今回は、聴覚障がいを持つ生徒に対する授業を視察し、研究協議では授業計画の説明と授業後の振り返りを行った。

## ■1日目(10月12日)研究協議①

開講式では、<sup>さわとひでのり</sup>沢登英徳公益財団法人日本武道館振興課長補佐と、<sup>さいとうゆきこ</sup>齋藤往子公益財団法人全日本弓道連盟業務執行理事・中央委員、<sup>いけだまさし</sup>池田昌史静岡県立静岡聴覚特別支援学校副校長が挨拶を述べた。

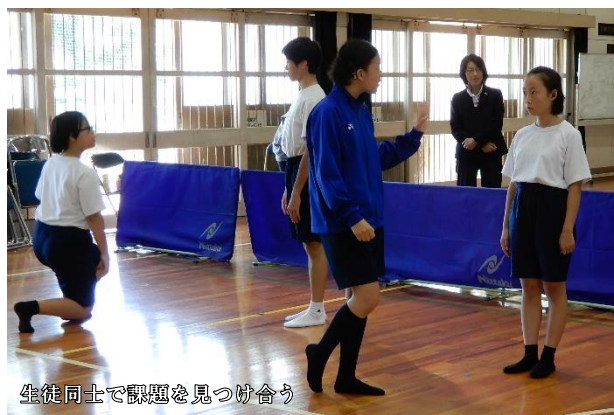
開講式後、研究協議①では、授業担当者が指導案について、「生徒同士が教え合う中で自分たちで課題を見つけられるような授業を計画した。弓道を通して礼法と落ち着きを学んでほしい」と説明した。研究者からは「今の子どもたちはコロナ禍で人と関わる機会が少なかったため、生徒同士でつながりを持つ授業展開は意義あるものだと思う」などといった意見が出た。その後、授業を行う体育館へ移動し、礼法について解説している掲示物の紹介や、的の設営方法の検討を行った。

## ■2日目(10月13日)授業視察・研究協議②

1年生6名、2年生1名、3年生1名、計8名が参加する保健体育の授業を視察した。全8時間授業のうち7・8時間目に該当し、今年度の弓道の授業

の総括が行われた。

はじめに全員で準備運動と、これまでの復習として座り方や礼の仕方・<sup>しゃほうはっせつ</sup>射法八節を確認し、適宜ペアを組んでお互いの改善点を話し合った。その後、1年生と2・3年生で分かれてグループ活動を実施。1年生は再度、ゴム弓による射法八節の一連の動作を丁寧に確認した後、実際に弓を持って所作を復習、2・3年生は昨年までの内容を確認しながら、外部指導者の手助けを得得的に向かって弓を引いた。



生徒同士で課題を見つけ合う

研究協議②では授業の振り返りを行い、「手話になっていない弓道の専門用語を伝えるのが難しい」といった授業者からの意見や、「限られた授業時間で生徒に弓道へ興味を持ってもらえるよう、細かい指導については一部を省略しても良いかもしれない。なるべく先生の負担にならない方法で続けるとよい」という研究者からの意見が出た。

閉講式では、研究者を代表して<sup>くわたひでこ</sup>桑田秀子研究者が講評を、<sup>さとうようこ</sup>佐藤容子静岡県立静岡聴覚特別支援学校校長、沢登課長補佐が挨拶を述べ、全日程を終了した。